高石市　小規模多機能型居宅介護事業所

自己評価及び運営推進会議での外部評価シート　項目（運営推進会議用）

実施日　　2025年1月29日　　事業所名　小規模多機能ホームアムール高石

		項目	自己評価欄	自己評価・根拠、課題・改善案	運営推進会議からの評価・意見
A　事業所自己評価の確認	1	当該事業所の職員が自己評価に取組んでいることが確認できましたか	□①ほぼ全ての職員の ■②職員の2/3くらいの □③職員の1/3くらいの □④ほとんど参加していない	介護スタッフの中には自己評価の意味や趣旨を理解できていない新人スタッフもいるため、改めて管理者より研修を実施し説明した。	利用者の方と 散歩や地域のスーパーなどで買い物をしている姿を見る事もあり地域の中で携わっている姿が見受けられる。地域の中で『アムール高石』を知らない人もいるので更なる広報活動をしてはどうでしょうか？
	2	前回の改善計画に対して、当該事業所の職員が具体的な取組みが行なわれていたか	□①ほぼ全ての職員の ■②職員の2/3くらいの □③職員の1/3くらいの □④ほとんど参加していない	介護スタッフが更に認知症カフェなどに参加できるよう取り組みたい。人材不足がうたわれているなかで余裕をもって取り組みができるよう考えていきたい。	自治会サロンなどでの認知症サポーター養成講座や認知症予防についてなどを引き続き依頼される。人員不足や担い手不足は自治会などでも同様です。地域で協力できればよいですね。
B　事業所のしつらえ・環境	3	事業所は居心地がいい空間になっていますか	■①ほぼ全ての利用者が □②利用者の2/3くらいが □③利用者の1/3くらいが □④ほとんどいない	ホーム自体がそれ程大きくもなくスタッフや他者との距離も近く皆さん和気あいあいと過ごされている姿が見られる。	利用者さんとスタッフの距離も近く家庭的な雰囲気で生活されています。また小規模で多機能性のあるホームとして臨機応変で速やかな対応をしてくれていると思っています。
	4	家族や地域の方が事業所に入りやすい環境で、日中事業所の門や玄関に鍵がかかっていませんか（9時～18時頃）	■①ほぼ全ての時間が □②日中の時間の2/3くらいか □③日中の時間の1/3くらいか □④ほとんどあいていない	先ずはグループホームのインターホンで小規模へ案内している。鍵に関しては夜間以外は施錠していない。	GHのインターホンを押す事で案内して下さる事は関係者間では周知されている。慣れている人は直接伺っています。
C事業所と地域の相互の関わり（運営推進会議をいかした取組み）	5	家族や地域から何か困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き、相談しやすい場所になっていますか	■①ほぼ全ての家族などと □②家族などの2/3くらいの □③家族などの1/3くらいの □④ほとんどできていない	以前利用されていたご家族様からも近所の方の事で相談に来られるケースもあり地域の方にとって相談しやすい環境になっている。別の自治会役員さんからも紹介がありました。	地域の中に小規模多機能がある事に対して根付いてきている。地域の中で『アムール高石』を知らない人もいるが、ロゴの入った送迎車両などを見かけることも増しています
	6	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えてきていますか（行事やイベントに参加しているか）	□①大いに増えている ■②少しずつ増えている □③あまり増えていない □④全くいない	今年度も様々な感染対策として地域のイベントへの参加を自粛することもあったができる限り地域の催しには参加している。介護スタッフが参加する機会が少ないので今後は参加できる体制を整えていきたい。	今後も地域のイベントや防災訓練などに参加をお願いします。「こども安全見守り隊」のジャンパーを着て散歩してくれている姿を拝見しました。今後も宜しくお願いします。
	7	地域での取組みを一緒に取組もうとしていますか	□①大いにある ■②少しある □③あまりない □④全くない	主に管理者が参加しており今後は介護スタッフも参加できる体制を整えていく。何を地域と取り組んでいるかも分からないスタッフもいた。	地域のサロンや年末の夜警への可能な範囲で参加してほしい。

D事業所の防災・災害対策（運営推進会議をいかした取組み）	8	当該事業所の防災計画をしっていますか	□①ほぼ全ての計画を ■②計画の2/3くらいの □③計画の1/3くらいの □④ほとんどしらない	今年度よりBCP作成が義務化されています。事案が発生した場合の対応についてどう対応していいかの今後も検討が必要と考えています。	課題として今後は想定外の災害があった時の地域としての対応をどうしていくか考えていかないといけない。
	9	当該事業所は地域の防災訓練に参加参画していますか	■①ほぼ毎回のように □②数回に1回程度 □③年単位でたまにある □④ほとんどない	今年度よりBCP作成が義務化されていますそのこともあり、ホーム内での防災訓練のみではなく地域の防災訓練にも積極的に参加していきたい	毎年高石市の防災訓練への参加を可能な範囲お願いしたい。
	10	当該事業所の地域の防災訓練に参加参画していますか	□①ほぼ毎回のように □②数回に1回程度 ■③年単位でたまにある □④ほとんどない	今年度よりBCP作成が義務化されていますそのこともあり、ホーム内での防災訓練のみではなく地域の防災訓練にも積極的に参加していきたい	毎年高石市の防災訓練への参加を可能な範囲お願いしたい。
E人権プライバシー・多機能性のある柔軟な支援	11	各々のニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか（また、その報告を運営推進会議で報告をされていますか）	■①ほぼ全ての利用者が □②利用者の2/3くらいが □③利用者の1/3くらいが □④ほとんどいない	ニーズに合わせて臨機応変に対応しており、運営推進会議で各サービスの利用方法などを報告している。	運営推進会議で日々の報告を受けており問題ないと思われる。
	12	身体拘束や虐待、プライバシーは守られていますか	■①ほぼ全ての利用者が □②利用者の2/3くらいが □③利用者の1/3くらいが □④ほとんどいない	入社時、及び年2回は必ず行い、また必要に応じて勉強会を行っている。運営推進会議でも報告を行っている	特に意見なし。問題なく継続してると思われる。運営推進会議の構成員が身体拘束虐待防止委員をかねることは理解できるが責任が重く感じる。
	13	利用者は、職員が支援することでいきいきした表情や姿が見られていますか	■①ほぼ全ての利用者が □②利用者の2/3くらいが □③利用者の1/3くらいが □④ほとんどいない	GH玄関のベンチまで散歩に出かけたり、今まで自宅でしていたような作業を一緒に行っている。	散歩をしている姿やピアノを一緒にひいて歌を歌っている姿を見る時がある。

※小規模多機能型居宅介護については、運営推進会議において、外部評価を行う必要があるため、年1回は、この様式により自己評価を行った上で、運営推進会議において外部評価を実施し、記録を残すこと。
なお、実施時期は、年1回事業所の任意の時期とするが、事業所は、書面会議ではなく、実際の運営推進会議の場で自己評価結果とその理由等について説明し、外部評価として評価や意見を受けること。
また、高石市介護保険課には、「自己評価及び運営推進会議での外部評価シート」及び「小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表」を提出することとします。

2024（令和 6）年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　（令和 7 年 3 月 26 日　担当課へ提出）

法人名	(株)ﾗｲﾌﾊﾟｰﾄﾅｰ	代表者	和田嘉治
事業所名	小規模多機能ﾎｰﾑ アムール高石	管理者	米谷正次

法人・事業所の特徴	地域密着型サービス事業所として、地域の方が介護が必要と考えられた時の気軽に相談ができる相談窓口として対応できるよう心掛けている。自宅での生活が可能な限りできるよう関係機関など(地域の福祉委員や自治会、地域包括支援センター担当者、介護事業所等)と連携を図り地域に密着できるよう行っている。ホームでは利用者と共に調理やホーム周辺の散歩、翌日の買い物に出向く等日々の生活からかけ離れないようさりげない支援を心掛けている。イベントとしては、季節に応じて味覚狩りや地域の行事(運動会や避難訓練)等の外出や催し等に参加している。自宅やホームで楽しく安心して健康的に過ごして頂けるよう看護師を常勤にて配置し支援を行っている

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
			3 人			2 人		8 人		13 人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	前回の結果に対する意見はなかった。	前回の結果に対する意見はなかった。	小規模多機能の職員総数(兼務者除く)8 名のうち、常勤職員 5 名・非常勤職員 3 名・管理者が出席され取り組む姿勢としては特に問題ない。	特になし
B．事業所のしつらえ・環境	前回の結果に対する意見はない。	前回の結果に対する意見はなかった。	小規模多機能ホームは一軒家を改造した作りとなっている為、決して広く快適とはいえないが、アットホームな環境である。裏口には鍵がかかっているが、表玄関には鍵はかかっていない事が確認される。地域からはわかりづらい場所になるが、ＧＨがわかりやすいので問題ない。	特になし
C．事業所と地域の相互の関わり	現場スタッフが研修会や地域のイベントへの参加率を高める。	まずはホーム内にて高石市内の社会資源等の勉強会(認知症サポーター養成講座等)を実施し、利用者と共に現場スタッフが可能な限り参加するようにしている。	地域の認知症カフェ（浜寺病院、高石市社会福祉協議会など）に参加している。 アムール高石の名前は知っており、ここに建物があるという事を知っている人は多くいると思う。具体的に何をしているか知らいない人も多いと思うが地域に密着しようとする取り組みは感じられる。	特になし
D．事業所の防災・災害対策	運営推進会議において防災計画を提出し火災が生じた際などの具体的な対策を行っていく。	前回の結果に対する意見はない。	年 2 回(6 月・12 月)避難訓練をされており、地域の防災訓練にも積極的に参加されている。 有事の際には入居者の対応に追われると感じる為、地域での活動が優先されるためホームにとって頼りになるかは分からない。	地域と事業所が協力しながら災害対策できるような、ＢＣＰ作成を今後も運営推進会議を通して検討していきたい。
E．　人権プライバシー・多機能性のある柔軟な支援	前回の結果に対する意見はない。	入社時や毎月のＭＴの際に権利擁護についての勉強会を開催している。その方の生活に合うよう柔軟に対応している。	入社時やＭＴ等で虐待防止の研修を行っていると聞き取り組みについては評価する。また、管理者は地域で講演活動を行っていることを知っている。これからも自治会などでも取り組みを継続してほしい。 またスタッフが利用者の方と散歩や買い物をしている姿を拝見する事があり、地域に根ざした取り組みをしていると感じられた。	特になし